



患者さんとの信頼関係を大切にしています

当病棟では、先日30年以上長期入院していた患者さんが退院しました。当病棟で行っている退院支援を通して、患者さんとの関わりを紹介したいと思います。



「10年以上入院している患者さんをどのようにしたら地域生活が出来るようになるのか、退院してもすぐに入院してくるのではないか」という私たち医療者側の不安は大変大きなものでした。また、患者さんにとっても「何年もの間に退院なんかできない、退院といっても行くところがない。」など、不安材料は私たちの想像をはるかに超えていました。看護師は24時間患者さんと直接関わっているため、信頼関係は非常に強いものがあると感じています。そこで、患者さんの目を病院の外に向けられるよう、一緒に外出して買い物等の気分転換などを通して信頼関係を深め、退院への想いや地域生活での不安などを聞いたりしました。そして、その想いをケア会議（医師、看護師、ソーシャルワーカー、作業療法



こころの医療センター3階病棟
た だ のぶ ゆき
多 田 信 幸

士、市の福祉担当者、本人、家族）の中で話し合い、問題点や支援内容を検討し支援を行いました。退院は地域生活の出発点であり、地域生活が出来る事が最大の目標です。患者さんから「あなたの支援があれば地域生活が出来る」という言葉をいただいたことが嬉しく心に残っています。

退院支援を通し、重度な障害がある患者さんも医療者側のチームワークや地域のサポートを上手に活用すれば、地域で生活出来る事を確信しました。これからも常に患者さん目線で、きめ細やかな支援が提供できるように努力し、後輩にも伝えていきたいと思っています。

上司から一言



こころの医療センター
3階病棟 室長
お の ゆき こ
小 野 幸 子

当病棟（ストレスケア病棟）は、うつ病などのストレス障害や、退院準備期にある患者さんを中心に、明るく、落ち着いた開放環境で、こちらのケアやリハビリテーションを行っています。また、患者さんの生活力を引き出すために、入院早期から多職種で支援を行い、様々な問題解決に取り組んでいます。

精神科支援で大切なのは患者さんと信頼関係の構築と支援のタイミングです。多田さんは、患者さんとの関わりが定評で、患者さんやその家族、スタッフの間からも高い信頼を得ています。これからも病棟の活力源となって後輩育成に努めてほしいと思います。